

大和の初期前方後円墳

— おおやまと古墳群の 70 年間の研究成果の紹介 —

橿原考古学研究所 豊岡 卓之

「おおやまと古墳群」は、古代に「大和」とよばれた奈良盆地東南部に展開する古墳群の把握概念である（伊達宗泰 1999）。

おおやまと古墳群の古墳の古さは、記紀や延喜式諸陵寮の記載にもとづいて早くから注目されていた。考古学による研究が本格化するのには、橿考研による 1948 年の天理市櫛山古墳、1949 年の桜井市桜井茶臼山古墳の発掘からである。1960 年には天理市大和天神山古墳を発掘して、木棺内に納められた多量の水銀朱を囲む銅鏡群を検出した。

1971 年からは桜井市纏向遺跡の発掘を開始した。纏向調査は、奈良盆地の古式土師器の詳細編年を確立し、そこに他地域の搬入土器を組み込んだことで、各地の古墳を統一の基準で編年することを可能にした。また纏向調査は、大規模居館と水路網で構成される都宮遺構の広がり、それに最古期の前方後円墳で構成される纏向古墳群が付帯することを明らかにした。

1990 年代には、橿考研は天理市中山大塚古墳・下池山古墳・黒塚古墳・上の山古墳・桜井市ホケノ山古墳・橿原市葛本弁天塚古墳・大和郡山市小泉大塚古墳の発掘を実施し、古墳時代初頭～前期前半に築造された 90～130m 級の前方後円（方）墳の墳丘の構造、埋葬施設の形態、副葬品の構成に関する情報を集積した。また 2008 年には、初期の大型前方後円墳である桜井茶臼山古墳を再発掘した。墳頂の埋葬施設上部を圍繞する施設“丸太垣”を検出するとともに、盗掘土中から 81 面以上の銅鏡片等を回収して、初期大型前方後円墳が中・小規模古墳とは隔絶した内容をもつことを明確にした。

本講演では、70 年間に亘る橿考研のおおやまと古墳群の研究成果を踏まえて、奈良盆地東南部に前方後円墳が登場し、発展する姿を紹介する。

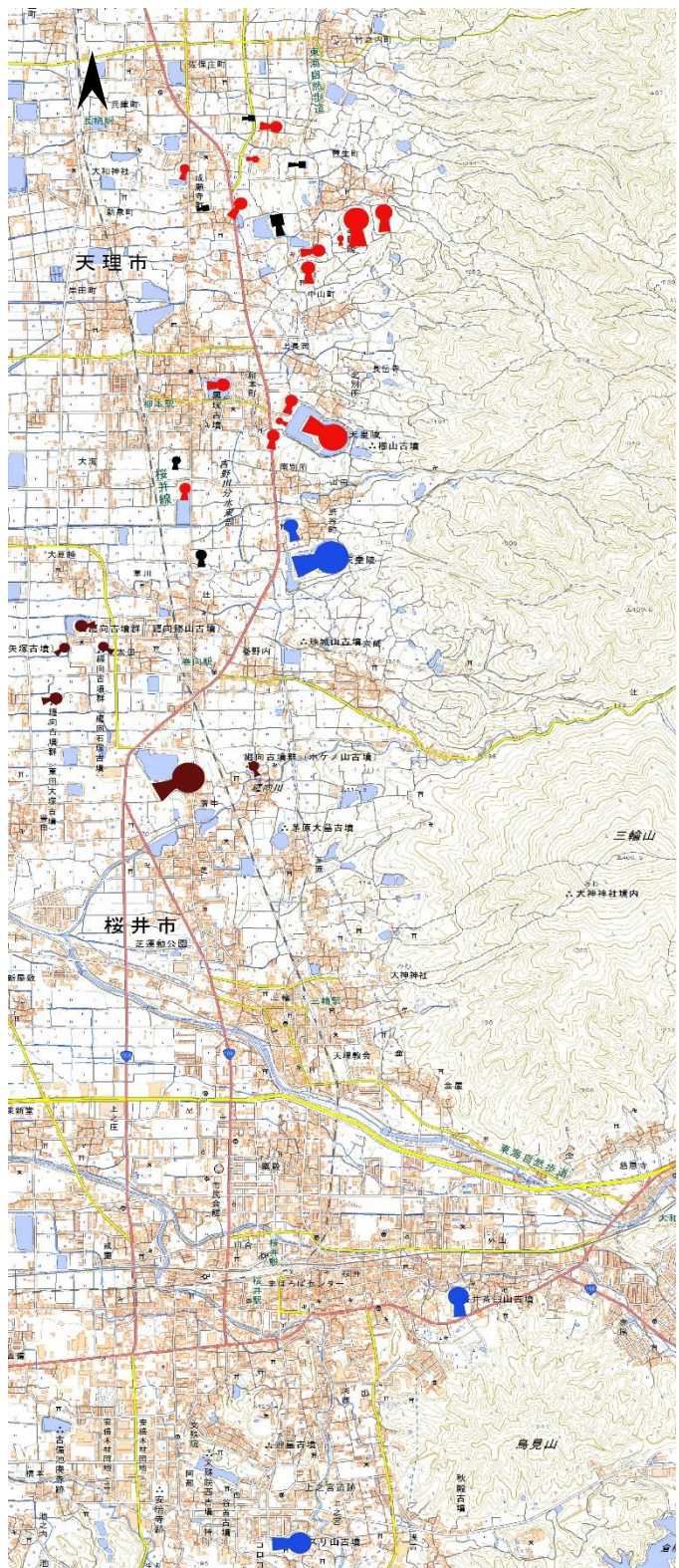


図 1 おおやまと古墳群

国土地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp>) に加筆

表 1 おおやまと古墳群 古墳一覧

支群	古墳名	全長	時期 纏向新編年	遺構・遺物の概要	調査年度
萱生古墳群	ヒエ塚	130m 前方後円	4 類後葉	葺石、周濠	2003・4・7／榎考研、2013・7／天理市
	ノムギ	63m 前方後方	5 類中葉?	周濠	2003／榎考研、2009～12／天理市
	マバカ	74m 前方後円	5 類中葉?	周濠	2002・4／榎考研
	波多子塚	140m 前方後方	5 類前葉	葺石・周濠・都月形	1998／天理市
	下池山	120m 前方後方	5 類中葉?	竪穴式石室・割竹形木棺・副室(仿製大型内行花文鏡)	1995／榎考研
	燈籠山	110m 前方後円	5 類前葉	埴枕・都月形・円筒・玉	(出土品：畝傍高校蔵)
	西殿塚	230m 前方後円	5 類初頭	宮山形・都月形・円筒・葺石	1992～4／天理市、1989／宮内庁
	東殿塚	175m 前方後円	5 類前葉	竪穴式石室・都月形・円筒・葺石	1997／天理市
	中山大塚	130m 前方後円	4 類後葉	竪穴式石室・鏡・武器・宮山形・都月形・円筒・葺石	1977・85／榎考研
栗塚	120m? 前方後円	?	?	1959／榎考研	
柳本(北)古墳群	櫛山	155m 双方中円	5 類末またはその直後	竪穴式石室・組合式石棺・石製腕飾類・楕円筒埴輪	1948・9・1988／榎考研、1983・1997／天理市
	黒塚	130m 前方後円	5 類前葉	竪穴式石室・鏡・武器・周濠(?)	1997・8／榎考研
	大和天神山	103m 前方後円	5 類前～中葉	竪穴式石室・鏡・武器・水銀朱	1960／榎考研
	石名塚	111m 前方後円	5 類中葉	周濠	2003／榎考研
	行燈山	250m 前方後円	5 類中葉	葺石・埴輪・周濠	1974・5／宮内庁
柳本(南)古墳群	上の山	144m 前方後円	5 類後葉	葺石・埴輪・周濠	1994／榎考研
	渋谷向山	300m 前方後円	5 類後葉	葺石・埴輪・周濠	1973・77・93・2015／宮内庁
	柳本大塚	94m 前方後円	?	竪穴式石室・木棺・副室・(仿製大型内行花文鏡)	(出土品：宮内庁蔵)

簀中・纏向古墳群	ホケノ山	90m 前方後円	3類中葉	葺石・石囲い木槨・鏡・武器・割竹形木棺	1995・6・9／榎考研、1995・6／桜井市
	箸墓	280m 前方後円	4類末	周濠・葺石・宮山形・都月形	1994／榎考研、1998・2000・8・9／桜井市
	石塚	96m 前方後円	3類前～中葉?	周濠・木製品	1971・5・6／榎考研、1989・91・2・3・6・2005／桜井市
	勝山	115m 前方後円	3類後葉～4類初頭	周濠・木製品	1997・8・2000・8／榎考研
	矢塚	96m 前方後円	4類中葉	周濠	1971／榎考研、2007・8／桜井市
	東田大塚	120m 前方後円	4類末	周濠	1997・98・2006・7・8／桜井市
磐余	桜井茶白山	200m 前方後円	5類初頭	周辺区画・丸太垣・竪穴式石室・割竹形木棺・鏡・石製品・武器	1949・50・73・2003・9／榎考研
	メスリ山	約240m 前方後円	5類中葉	埴輪圍繞・竪穴式石室・鏡・石製品・副室・武器	1959／榎考研、1985／桜井市

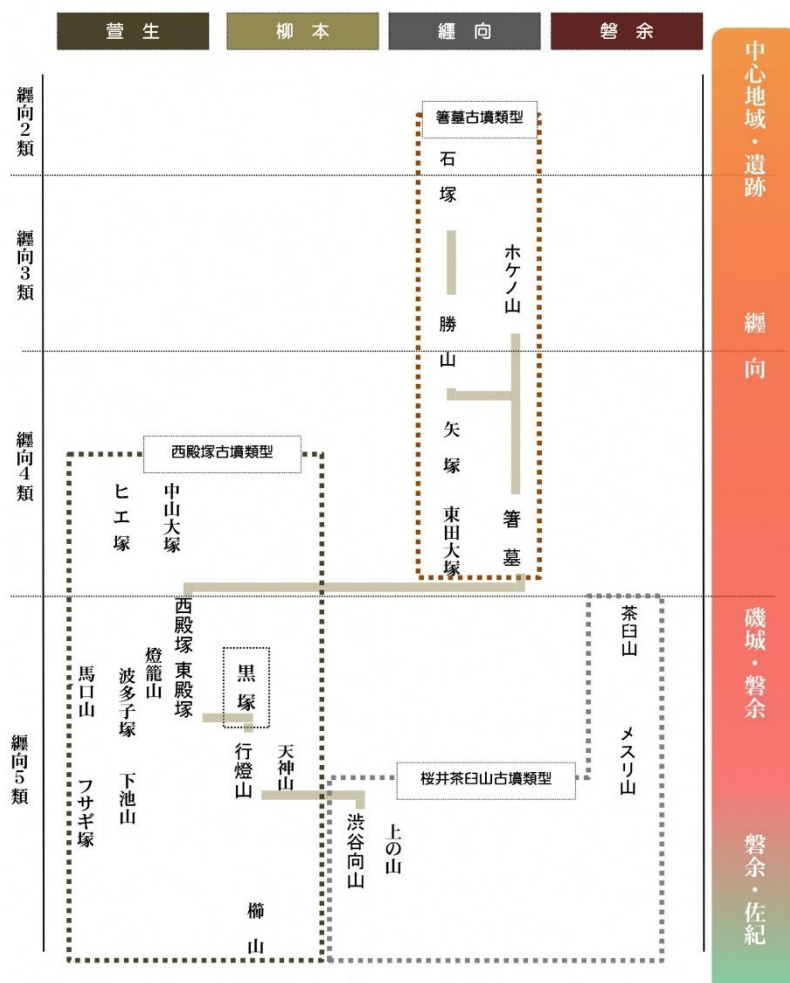


表2 おおやまと古墳群 主要古墳の編年

補助資料1 『抱朴子』内篇卷四 金丹 (葛洪/西晋~東晋)

◇塗布による効能(辟邪の効能がある丹とその使用法)

- ① 還丹「…以此丹書凡人目上、百鬼走避。」
- ② 伏丹「…持之、百鬼避之。以丹書門戸上、萬邪衆精不敢前、又辟盜賊虎狼。」
- ③ 丹金(威喜巨勝之法)「…以塗刀劍、辟兵萬里。」
- ④ 羨門子丹法「…此丹可以厭百鬼、及四方死人殃注害人宅、及起土功妨人者、懸以向之、則無患矣。」

補助資料2 鏡の呪力に関する古文献(抄)

- ①『古鏡記』(王度/隋~唐)

八寸の大型鏡は化け物を退治し、疾病や自然の驚異を払う。

- ②『酉陽雜俎』卷十(段成式/唐)

日南郡に伝世した始皇帝の大型方形鏡は、人の五臓を照らす。

- ③『西京雜記』卷三(葛洪/西晋~東晋)

咸陽宮の大型方鏡は、胃腸五臓を照らして疾病のありかを示し、宮女に邪心があれば、胆が張って心動くところを映した。

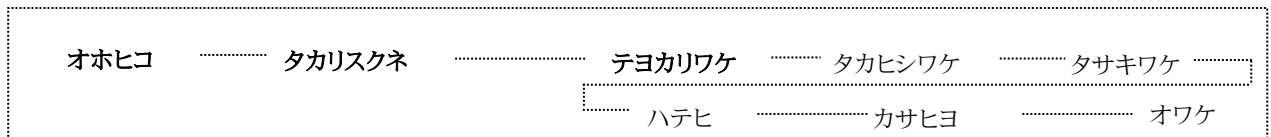
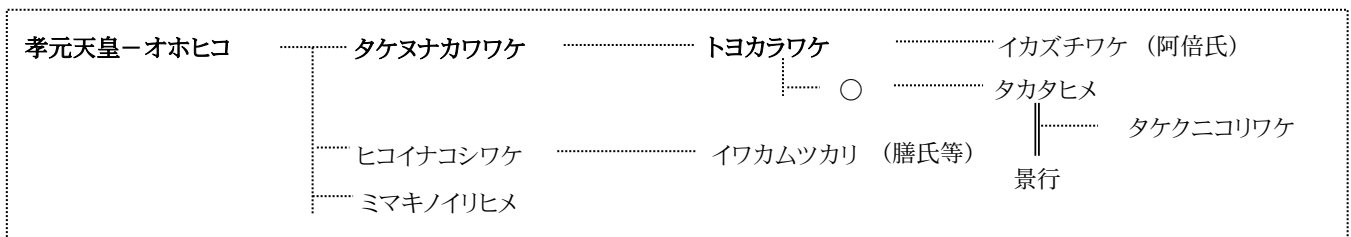
- ④『抱朴子』「内篇卷十七 登涉」(葛洪/西晋~東晋)

入山する道士が九寸以上の鏡を背中に掛けていれば老練な魔物も近づかない。鏡には魔物を写しだす力がある。張蓋踰と偶高成は、雲臺山で修業した折に、鹿が人に化けて訪ねてきたことを鏡に映して知り、林慮山の麓の宿に泊まった鄧伯夷は、犬が人に化けているのを鏡に映して見抜き、魔物を追い払った。

- ⑤『万物』安徽省阜陽出土漢簡(165 B.C.以前)

「…事至れば、大鏡を高く懸ける也」⇒大鏡は悪しきことを払う力をもつ。

補助資料3 オホヒコと阿倍氏・膳氏の世譜(上)、埼玉稲荷山古墳辛亥銘鉄劍の世譜(下)



註文献 伊達宗泰 1999 『「おおやまと」の古墳集団』 学生社